

茨歯発 第 206 号
令和 5年 9月 12日

医療従事者 様
介護従事者 様

茨城県歯科医師会
会長 榊 正 幸
(公印省略)

介護保険講習会について

初秋の候、貴殿益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、この度、本会では、介護保険事業の一環として、標記講習会を下記により開催することとなりましたのでご案内申し上げます。多数の方のご参加をお待ちしております。

記

1. 日時 令和 5年10月29日(日) 10時～12時
2. 場所 茨城県歯科医師会館 3階講堂 **【WEB受講可能】**
水戸市見和 2-292-1 Tel029-252-2561
3. 演題・講師 「認知症グレーゾーンの歯科診療と地域連携」
日立市開業 黒澤歯科医院 黒澤 俊夫 先生
4. 抄録・略歴 次頁
5. 対象者 医療・介護従事者
6. 定員 会場参加者定員50名、WEB参加者定員なし
※定員内でお入りいただける場合は、とくにご返事は差し上げません。
7. 受講料 無料
8. 申込方法 下記URL又はQRコードからの申込フォームで、10月20日(金)までにお申し込み下さい。こちらでのお申し込みが難しい場合は、本会事務局までお問い合わせ下さい。

WEB受講者の方には、受講案内メールを後日お送りします。

URL

<https://forms.gle/oDdz1adQ3os4mwPg8>

QRコード



【抄録】

「認知症グレーゾーンの歯科診療と地域連携」

認知症の7割を占めるとされるアルツハイマー型認知症は約20年を経て、正常→軽度認知機能障害(MCI)→認知症へと移行します。移行期である軽度認知機能障害(MCI)の時期は『認知症グレーゾーン』と捉えられます。そして、早期発見により、およそ3割の人は認知症グレーゾーンから認知症に移行しないで回復するとされています。

認知症サポート医によれば、「認知症グレーゾーンの期間は数年で終わるので、このゴールデンタイムの時期に歯科医院での気づき、スクリーニングが大切」と述べています。そのため、早期発見には本人はもとより家族や介護者とコミュニケーションを密にするとともに、院内では歯科医師、歯科衛生士、受付スタッフが情報共有しアンテナを高く張る必要があります。

かかりつけ歯科医院と患者さんとの長期、定期的な関係は認知症の兆しである、認知症グレーゾーンを発見できる絶好の距離感にあります。

この6月に成立した「認知症基本法案」には、認知症を抱えた人と共生できる社会の実現を骨子として認知症予防の推進がうたわれています。また、アルツハイマー型認知症の根本治療薬のレカネマブが先ごろ承認されました。MCIから早期認知症の時期の投与が効果的であることから、認知症を早期発見して、適切な医療機関につなげる役割りは今後大切になってきます。

このような社会の流れを俯瞰した時、これからの歯科医院は認知症の人が安心して受診できる診療の提供とともに、認知症の発症予防、進行抑止に貢献できるのではないのでしょうか。

本日は、当院における認知症の早期発見のスクリーニング法や認知症サポート医との連携の日常についてお話しさせていただきます。

【ご略歴等】

1975年 日本歯科大学歯学部卒業
1983年 黒澤歯科医院開業
1985年 歯学博士
2011年 日立歯科医師会副会長
2015年 茨城県歯科医師会副会長
2023年 茨城県歯科医師会監事
元ドライマウス研究会世話人
元日立三師会研究会世話人

執筆

『ドライマウスの臨床』 共著、医歯薬出版 2007
『認知症グレーゾーンの歯科診療と地域連携 Q&A』 著 監修 工藤純夫(認知症サポート医) 2023
月刊『アポロニア 21(日本歯科新聞社)連載
『歯科老化 生活している患者さんをトータルに考えよう』 1998
『写真は語る 遺伝、環境と歯科疾患』 2001
『カルテが語り掛ける 高齢者の生理と病理』 2007

所属学会

日本老年歯科学会
日本睡眠歯科学会
日本認知症予防学会
ドライマウス研究会